

「第35回日本臨床工学会」 取材レポート

2025年5月17日(土)、18日(日)に、「第35回日本臨床工学会」がグランキューブ大阪(大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51)で開催された(図1)。

18日(日)8:30~10:30に第1会場(5F・大ホール)で実施された理事長企画「日本臨床工学技士の将来に向けての事業」[司会:小北克也(一般社団法人 大阪府臨床工学技士会 会長),五十嵐茂幸(公益社団法人 日本臨床工学技士会 常任理事)]の取材概要を以下に報告する。



図1 会場

1 「日本臨床工学技士会の方向性について」(図2)

本間 崇(公益社団法人 日本臨床工学技士会 理事長)

日本臨床工学技士会2025年度事業計画(案)が示された。医療DXの最たる問題点は、サイバーセキュリティ対策が十分でないことであり、ICT国家資格等取得のための奨励金制度を実施していること、2025年度より「認定医療安全臨床工学技士」などが新たに設置されること、また、2025年5月13日付で「臨床工学技士の術中麻酔関連補助業務に関する安全管理指針～公益社団法人日本麻酔科学会、公益社団法人日本臨床工学技士会からの提言～」が公開されたことが共有された。

2 「専門・認定制度の現状と臨床実習指導者講習会の受講状況について」

山下芳久(公益社団法人 日本臨床工学技士会 副理事長)

「認定手術臨床工学技士」、「認定医療安全臨床工学技士」が2025年度に新設され、専門臨床工学技士は7部門、認定臨床工学技士は5部門となった。いずれの検定試験も、合格率は例年同率で推移している。

また、2022年度より開始した臨床実習指導者講習会は、これまで全23回行い、2025年4月24日時点で1086名が修了している。全国臨床実習施設数は1174施設であり、そのうち約1000施設に修了者が配置されたため、残りは約174施設となる。今後も修了者の充足を目指していく。

3 「医療安全対策におけるサイバーセキュリティ対策の取り組み」

肥田泰幸(公益社団法人 日本臨床工学技士会 副理事長)

臨床工学技士(CE)はDX・AIを総合的に担うのにふさわしい職種であり、国家試験でもデジタル分野に関する問題が出題されている。組織的にサイバーセキュリティ対策を取り組んでいく必要があ

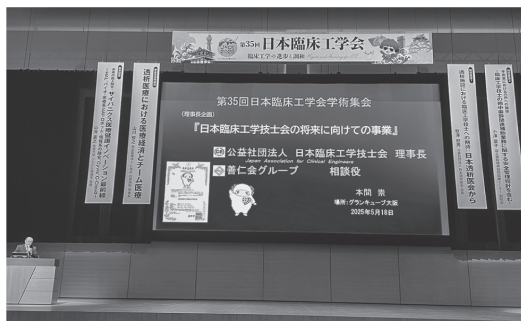


図2 理事長による講演

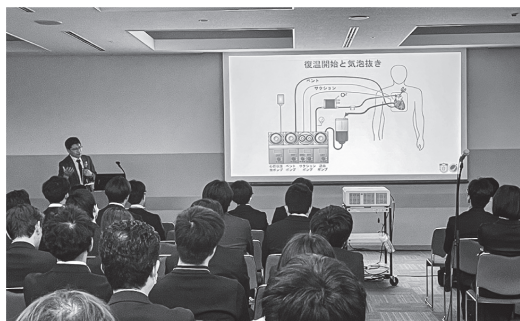


図3 教育セッションの様子

るが、現状は知識・人材・予算の不足を課題としている。CEがICU・手術室・在宅医療を拠点に、DX・AIを用いて情報でつないでいく未来を期待したい。

4 「関連学会との連携による資格制度について」

大塚 紹 (公益社団法人 日本臨床工学技士会 副理事長)

専門・認定制度は他団体・学会と連携しているが、それによりCEの社会的信頼の向上につながる。CEのなり手を育てることも重要だが、CE退職者や臨床工学技士会会員の退会抑制といった人材確保も今後の課題である。

5 「告示研修の受講状況と今後」

青木郁香 (公益社団法人 日本臨床工学技士会 専務理事)

告示研修の受講者は2025年4月30日時点で、21,368名(目標:28,000名)である。業務拡大により清潔野補助、麻酔補助、スコープオペレータ業務の従事者数は増加しており、本学会のセッションにおいても大盛況であった。

養成施設は定員割れの現状にあるが、2050年まで65歳以上の人口は増え続けるため、今後新たなCEが1.5万人必要となる。一人ひとりが将来に向けて「いま、何をすべきか」が問いかけられた。

おわりに

本企画では、業務拡大の現状や医療DXへの対応など、CEをとりまく最新の動向が多角的に示された。変化の時代を迎えるいま、一人ひとりが将来を見据えて自分がすべきことを考えるきっかけになったのではないだろうか。

本学会の2日間の参加者数は4500名以上となり、全17会場で行われたいずれのプログラムも多くの参加者で活気に溢れていた(図3)。次回は2026年5月16日(土)、17日(日)に福岡国際会議場マリンメッセB館で開催予定である。来年はどのような企画が集まるのか、期待が高まる。

(株)Gakken クリニカルエンジニアリング編集室